

情報クリップ

農業情報ピックアップ

9/26 冷夏で全国の水稲作況「92」

93年以來の不作確実に
農水省は、2003年産水稲の作況指数（9月15日現在）を正式に発表した。冷夏で低温や日照不足の地域が多く、イネの生育に悪影響が広がっており、全国平均は「92」で、1993年以來の不作が確定となった。青森が「71」だったのを始め、岩手が「77」、宮城が「78」になるなど、北海道や東北地方の太平洋側での作況の悪化が目立った。
農水省は作況指数「92」を前提にしても、2003年産米は785万tを確保できると試算。年間の主食向け需要量は870万t程度だが、政府などが保有する在庫米が150万t程度（10月末見込み）あるため、安定供給には心配がないとしている。（共同）

国際関係

9/11 WTO閣僚会議が開幕

WTO第5回閣僚会議がメキシコのリゾート地カンクンで開幕した。146ヶ国・地域の担当閣僚らが集まり、農業分野などの一環の市場開放を目指す新ラウンドの前進に向け協議する。焦点の農業分野の自由化は、米欧案を取り入れた「閣僚文書」修正草案が、コメなど高関税品目の関税上限の設定や、高関税品目のミニマムアクセス（最低輸入量）拡大などにつながる内容であるため、日本は受け入れを拒否している。（共同）

9/19 韓国、キムチの輸入超過に中国産の輸入急増

「キムチ王国」韓国が今年上半期、輸出より輸入が多い事実上の「キムチ純輸入国」に転落したことが、韓国農協中央会の資料でわかった。中央会によると、韓国は上半期に1万9,053tの中国産キムチを輸入し、輸出量の1万5,883tを上回ったという。特に半製品を除く中国産キムチの輸入が前年同期の19tから9,318tに急増した。中国産は価格が韓国産の50%

60%で、給食業者向けに輸入が拡大している。韓国は1996年に初めてキムチ輸入国になり、輸入量が年々増加している。（朝日）

9/29 WTO農業交渉を延期

WTOは、10月6日から9日までの日程で開く予定だった新多角的貿易交渉（新ラウンド）農業自由化交渉の会合の延期を決めた。通商筋によると、ハービンソン農業交渉議長が29日までに、WTO閣僚会議決裂後の混乱が收拾されるまで、農業交渉の再開は困難との判断を加盟各国に通告した。10月下旬にはWTO一般理事会が開かれる予定で、WTOはこの場で農業を含む各交渉の今後の進め方を協議する方針とみられる。（共同）

コメ作況

9/18 水田が茶色に変色、宮城で穂もち病

低温と日照不足でコメの不作が懸念される宮城県で、穂もち病が発生し、水田を茶色に染めている。穂もち病は葉の部分から発生し、徐々に茎や穂首に広がるのが通例だが、1993年の冷害時同様、今年は急速に穂首に被害が

出た水田が多く、十分な防除対策もできなかったという。県の調査によると、県内の水稲作付面積約7万9,400haのうち、2割強で被害が報告されている。（読売）

9/19 不稔率6割の地域も

農水省は9月上旬時点の北海道、東北地域での水稲の生育状況を発表。北海道と青森県を中心にイネが実らない「不稔」の割合が最悪の地域で6割に達するなど、平年より大幅に悪化している実態が明らかになった。10年前の凶作時も不稔は高率で作況指数は極端に低かった。今回の農水省調査はごく一部地域に限定されたものではあるが、今年も10年前の凶作と並ぶ深刻な状況になりつつある。花粉が形成される時期の7月中旬から下旬に著しい低温と日照不足となったことが影響した。（共同）

9/19 政府備蓄米 約2割が完売 有銘柄は完売

農林水産省は冷夏によるコメの不作懸念に対応して緊急放出した2002年産政府備蓄米について、最終的な卸業者への販売状況をまとめた。販売申し込みの対象になった8万5,793tのうち販売が決まったのは6万8,397tで、知名度の低い銘柄を中心に約2割（1万7,396t）が売れ残った。産地・銘柄別では、対象76銘柄のうち宮城産ササニシキや茨城、栃木、富山産コシヒカリなど35銘柄が完売。逆に6銘柄は全く申し込みがなかった。（毎日）

10/2 コメ急騰2〜3割高値 03年産、地域ではらつき

10年ぶりの不作による流通市場

でのコメ価格上昇が小売りにも波及してきた。共同通信社が9月末から市場に回り始めた2003年産米の小売価格を調べたところ、地域や銘柄ごとにばらつきがあるものの、総じて前年比2〜3割前後の高値となった。自主流通米の新米入札では既に3〜4割の高値が付いているが、「そのまま価格転嫁すれば売れなくなる」と利ぎやを大幅に削っている小売店も多い。今後、新米販売が本格化すれば小売市場の混乱が広がる恐れもある。札幌市の小売店では北海道産「きらら397」が前年比21%高、秋田市の個人商店では秋田産「あきたこまち」が15%高、千葉市のスーパーでは新潟・魚沼産コシヒカリが18%高だった。（共同）

農産物窃盗

9/11 弘前でリンゴ1,500個 盗難 収穫期のものばかり狙う

青森県弘前市、農業清野さんから「リンゴ畑からリンゴがもぎ取られて盗まれている」と弘前署に届け出があった。被害に遭ったのは清野さんの自宅から約700m離れた畑に実っていた「さんざ」という品種約1,500個（時価4万5,000円相当）。赤みを帯びた収穫期のものばかりを狙って、4分の1の木のリンゴがもぎ取られていたという。（読売）

9/25 農作物窃盗の被害が82%増 冷夏の影響が、摘発は減少

今年1〜8月までの間に野菜やコメなどの農作物や水産物が盗まれる事件が昨年同期比48・1%増の480件、被害額は81・8%増の約5,590万円に上ったことが

警察庁のまとめで分かった。一方で摘発件数は昨年同期より8件少ない13件にとどまっている。被害急増の理由は、コメは冷夏の影響で値上がりしているためとみられるが、野菜や果物については不明という。まとめによると、地域別では九州が220件と最も多く、全体の45・8%を占めた。次いで関東の95件、中部の71件の順。被害品別にみると、野菜の被害が202件と最も多く42・1%、次いで果実111件、コメ50件と続いた。野菜の中ではスイカ、イチゴ、メロン、果実ではブドウ、サクランボ、モモの被害が多い。(共同)

9/27 高級ブドウ200kg盗まれる 松山
松山市上伊台町のブドウ園で9月初め、収穫を間近に控えた高級ブドウ約200kg(計約20万円相当)が盗まれていたことが分かった。調べでは、「ニュービオーネ」という品種のブドウ約400房が木から摘み取られ盗まれた。はさみのような刃物で茎を切つたらしい。現場は県道から約1km離れた山中で、防風ネットを張つていないブドウ園が被害に遭った。(共同)

10/1 玄米1,200kg盗まれる 相悪品残す 兵庫
兵庫県和山町白井で農業を営む男性から「玄米が盗まれた」と和山町署に届け出があった。同署が調べたところ、倉庫から今年収穫した玄米1,200kg(約36万円相当)がなくなっていた。同署は窃盗事件として捜査を始めた。

倉庫には玄米を30kgずつ分けて計42袋が保管されていた。このうち40袋が盗まれ、粉殻の交ざった

粗悪品の2袋は残されていた。倉庫のシャッターに鍵は掛かっていた。 (時事)

トピックス

9/13 メールで群れの位置連絡 福島市で「猿害」対策
サルに農作物を食い荒らされる「猿害」に毎年悩まされている福島市のJA新ふくしまは、携帯電話の電子メール機能で農家にサルの位置を知らせるサービスを始めた。

JAによると、今年は冷夏の影響で例年に比べ山にエサが少なく、モモなどの被害額は既に3,000万円を上回る見込み。関係者はあの手この手の被害防止策を展開中だ。(共同)

9/16 生産履歴情報を消費者に 東京都が年内にも開始
東京都は、都内で販売される農畜産物や加工食品を対象に、農業の使用状況や原材料、添加物などの生産、流通、消費に関する履歴情報を消費者に提供するシステムを年内にも整備することを決めた。

学識者らでつくる協議会を設置して情報提供する項目など細部を検討。12月以降、協力してもらう業者を募集する。消費者の「食の安全・安心」を確保するのが狙いで、自治体主導のこうした取り組みは珍しいという。(共同)

9/21 食肉、卵に「有機マーク」 農水省、04年度にも制度化
農水省は、自然に近い環境で育てた牛や豚、鶏からとれた食肉や牛乳、卵を「有機畜産物」と認定し、食品に統一表示を付ける方向で検討を始めた。野菜などの農産

物にはすでにJAS法に基づく「有機JASマーク」が付けられている。 (時事)

農水省は同じ方式で2004年度中の制度化を目指しており「消費者に分かりやすい情報を提供し、食品選びに役立ててもらいたい」としている。有機畜産物は化学肥料を使わずに栽培した飼料作物を与え、病気予防のための抗生物質を与えないなどの条件で育てられた牛や豚、鶏などの家畜を想定している。(共同)

9/30 82年と87年の英国牛が原因か 現在も最大33頭生存の可能性 BSE最終報告
BSEの感染源や感染経路などを調査していた農水省の「BSE疫学検討チーム」は最終報告書をまとめた。この中で検討チームは、1982年と1987年に英国から輸入したBSE感染牛を原料とする肉骨粉が原因となった可能性があると結論付けた。

BSEの潜伏期間が長く病原体を追跡することが不可能なことに加え、症例が少数であることなど制約が多いことから、調査は仮説を積み上げる方法で行われた。このため具体的な感染源や経路の特定には至らなかった。(時事)

9/30 中国産野菜から基準を超える残留農薬 厚労省が検査命令
中国産マメ科野菜の冷凍さき上げから基準値を超える農薬クロルピリホスが、シンガポール産ピーナツパターからは発がん性のあるカビ毒アフラトキシンが検出されたとして、厚生労働省は食品衛生法に基づく検査命令を出した。厚労省によると、さき上げからは基準値

を超過するものが出た。 (時事)

(0・01ppm)を超える0・03ppmの残留農薬が東京検疫所で検出された。(読売)

11月のイベント

(国内)
九州発・第1回日本食農創造展 2003 11月7〜9日
会場 グランメッセ熊本
内容 農業振興や安全な食料供給などを目的とした展示会。農業と食品産業、そして消費者を結び、食の安全性・信頼性の追求と循環型農業の構築を展示とセミナーで提案。

問い合わせ先 日刊工業新聞社
TEL 092-271-5715
公式サイト http://www.nikkan-seibueve.com/agri/

平成15年度 農林水産祭 美りのフェスティバル 11月14〜16日
会場 東京ビッグサイト
内容 農林水産業の普及啓発イベント。全国各地から集まる郷土特産品の中から、内閣総理大臣賞、天皇杯等が決定される。47都道府県の特産農林水産物の展示、即売、試飲試食など。

問い合わせ先 日本農林漁業振興会
TEL 03-3256-1791
公式サイト http://www.agriworld.or.jp/nomshinکو/

第5回アジア国際飲料産業展・会議 Asia Bev 2003 11月26〜28日
会場 東京ビッグサイト
内容 飲料産業界の専門会議と展示。飲料の原料・製造用機器・品

質管理用機器・容器・サニテーションからリサイクル・システムまでを展示。
問い合わせ先 アジアベブ開催事務局
TEL 03-3989-7550
公式サイト http://www.beverage-j.co.jp/

(海外)
International Horti Fair 2003 (NTV) 11月5〜9日
会場 RAI Exhibition & Congress Center (オランダ・アムステルダム)
内容 ヨーロッパ最大級の施設園芸に関する展示会。

問い合わせ先 Amsterdam RAI
TEL +31-20-297-344033
公式サイト http://www.horti-fair.nl/

AGRITECHNICA2003 11月11〜15日
会場 Messegelände (ドイツ・ハノーバー)
内容 農業関連の専門見本市。

問い合わせ先 Deutsche Landwirtschafts-Gesellschaft e.V.-DLG
TEL +49-69-247-880
公式サイト http://www1.agritech-nica.de/

EIMA (国際農業機械展) 11月15〜18日
会場 Bologna Fairground (イタリア・ボローニャ)
内容 最新の農業機械の展示。
問い合わせ先 Unacoma Service Srl
TEL +39-06-44-29-81
公式サイト http://www.eimait/